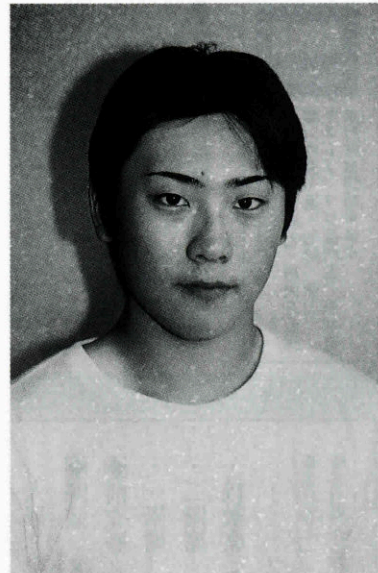


# ながとじん 長門人

## 仕事に満足



谷村 誠児 さん

たにむらせいじ／昭和54年5月3日生／青  
海区／仙崎漁業協同組合養殖課勤務

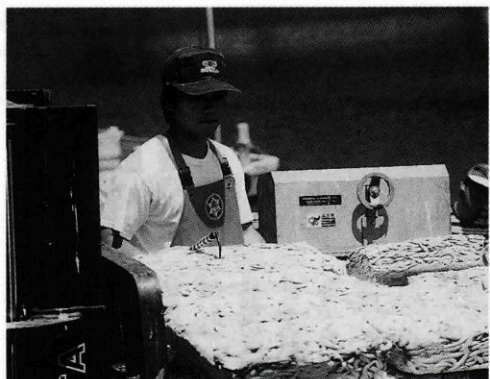
— 熱血・新鮮力 —

※仕事は 今年4月に養殖課に配属され、養殖魚の育成や管理が仕事です。少し慣れましたが、季節毎に仕事の内容が変わりますので、先輩の仕事振りをよく見て早く吸収したいと思って、今は毎日が勉強です。特に網替え（年2回）、魚の絞め方、潜水など教わる事がまだまだたくさんあります。

※趣味は スポーツでは、高校時代クラブ活動でしていたラグビーです。ほかは、車の運転が好きで、休みには秋吉や山口の方に出かけます。

※好きな食べ物 職場が職場だけに、やはり魚です。

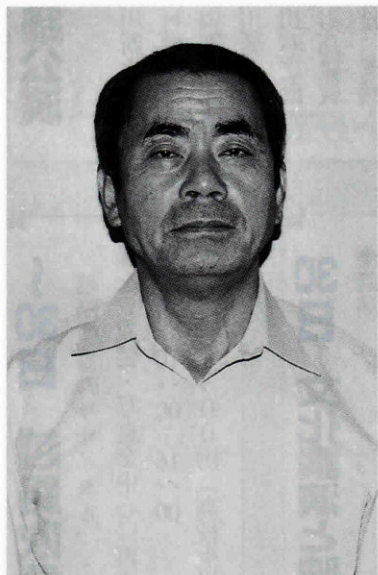
※好きな言葉は 「一攫千金」です。



※自由に一言 紫津浦の鯛ハマチ養殖場においでの際は、今マンボウが泳いでいます。運が良ければ見られると思いますので、是非お立ち寄り下さい。お待ちしております。

## 郷土文化を大切に

— ちよつと小耳に —



坂本 和磨 さん

さかもとかずま／昭和14年1月9日生／  
新町区／瀬戸崎鯨俣保存会会長

「瀬戸崎鯨俣保存会の復活は、平成11年3月1日。初代結成が昭和4年頃と聞いています。盛んな時は、広島海峡祭りにも出演していた記録があります。」と言われる坂本さん。復活のきっかけは、「金子みすゞさんの詩の中で、鯨に関するものを調べている内に、瀬戸崎鯨俣に巡り合い、このままだと廃れてしまふと思ひ、40年振りに3代目2人（永田さん・藤本さん）有志5人で結成しました。

毎月第2・第4月曜日に練習を重ねていますが、今年5月の仙崎芸能発表大会で初めて皆さんの前で唄いました。まあまあ出来でしたが、もっと人数が増えてくれれば良いと思つてい

ます。今後はまず、地元の人に郷土の文化として大切にしたいのと、子どもたちにも是非伝えて行きたいと思ひます。」と熱く語っておられました。



▲仙崎漁協ホールで初めて鯨俣を披露